

令和7年度 西米良村立西米良中学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校の教育目標		自ら考え、人とつながり、人を大切に作る生徒の育成		学校経営ビジョン		地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、学校、家庭、地域が一体となって、セルフマネジメントできる児童・生徒を育成する。	
【 4段階評価 A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待を下回る D：改善を要する 】							
評価項目	重点目標	方策・手立て	自己評価			学校関係者評価	
			評価	成果と課題	評価	意見	改善策等
1 確とか向 かな上 学力の 定着	(1) ICTと地域教育資源を有効活用した探究学習の推進	個別最適な学びと協働的な学びを基盤とした探究学習の充実を図る。 (ICT活用と地域教育資源を生かした探究的な学びを充実)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間(探究学習)に探究のサイクル(課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現)を軸に取り組んできた。今後議会へ提言し、一つでも実行できるようにしていく。 ●学力向上につながるように、教科とのつながりや学習指導面・授業改善にも、力を入れていきたい。 ○探究学習1年目・宮崎大学地域資源創成学部と連携しながら進めることができた。 ●次年度さらにアップデートできるように、探究学習の在り方を工夫する必要がある。教科とのつながりも意識していきたい。 ○テスト前の対策だけではなく、授業改善を図りながら、学びの定着を目指している。 ●授業の復習や課題の在り方を工夫していかななくてはならない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域探究学習によって、地域の課題や今後の西米良について、よく考えてくれた。また、メディアを通じて、西米良を発信することができてよかった。 ○ICT活用は中学校卒業後も、役立っている。ICT活用が学習成績の向上につながるようになるとよい。 ○高校進学等、希望の進路に行ける学力をつけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究で「探究学習」、教務学習部で「学力向上」に取り組んでいきたい。 ○「探究学習」については、本年度の課題を生かし、さらに発展的な探究学習につなげていく。 ○授業改善、課題の在り方を再構築していく。
	(2) 探究的な学習の場の設定と表現力の向上	総合的な学習の時間において、探究学習【気づき、探究、発表(発信)】の充実を図る。					
	(3) 指導と評価の一体化による学びの定着	各種テストの結果やアンケート結果を指導に反映させ、確実な学びの定着を図る。					
2 豊かな 心の 醸成	(1) 望ましいコミュニケーション能力の育成	社会性の育成と多様な人間関係や異集団に対応できる望ましいコミュニケーション能力を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○村応援プロジェクトや学校行事、探究学習等を通じて、積極的に地域、大学生などとのコミュニケーションを図りながら進めることができた。 ●交流会などでも自分に自信をもって、積極的に行動や発言できるように育成させていかななくてはならない。 ○村応援プロジェクトや学校行事、探究学習等を通じて、より深く探究し、自分事として捉えるようになった。 ●一人一人の役割が多かったり、一人の生徒に集中したりと今後、バランスをとっていく必要がある。 ○生徒一人一人の個性を理解し、個別の対応を図りながら、学校行事や係活動など自己有用感を感じられるようにしている。 ●生徒会活動、係活動の活性化を図りながら、自己有用感・自己指導能力の向上を図りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校、不登校傾向の生徒が気になるが、先生方が迅速に対応していただいているのでありがたい。 ○これまで、不登校だった生徒が改善に向かっていて、個別の対応等、大変ありがたく感じている。 ○少ない人数の中で、大変かもしれないが、これから生かすことのできる力を見つけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SSTを効果的に、取り入れていきたい。 ○村応援P、学校行事、探究学習の調整や見直しを少しでも図っていききたい。 ○生徒数減少に伴い負担感の少ない、生徒会活動、係活動等を見直していきたい。
	(2) 達成感や自己肯定感(自己有用感)、社会性、協調性の向上	体験活動や行事等を通して、自己肯定感や社会性の醸成と根気強く問題解決に臨む態度を育成する。					
	(3) いじめや不登校の未然防止と的確な初期対応	生徒指導の三機能を生かした積極的な生徒指導によるいじめや不登校の未然防止と的確な初期対応に努める。					
3 体と力 安全 健康 管理 の 増 徹 進 底	(1) 望ましい生活習慣や運動習慣の定着	食事や運動、睡眠等をバランスよく配分した生活の重要性を理解させ、自立に向けた生活力の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保健だより等で啓発を図っている。スマホ・ゲーム動画使用時間については、依然として多い。こころの健康観察を9月から実施し実態把握を行っている。 ●睡眠については、入眠時間と起床時間、睡眠時間のバランスが依然として課題である。家庭での意識付けをしていかなければならない。 ○学校栄養士や養護教諭を中心に食に関する教育を行っている。 ●弁当の日を設定し、自分で考えた弁当作りに挑戦している。 ●高校卒業後を見据えた、食育指導の在り方を検討していく必要がある。 ○月に1度、安全点検を行い、修繕を図っている。 ●SSS川島さんが毎週校内美化、設備修繕に努めてくれ、大変助かった。 ●老朽化に伴う、修繕が必要な箇所が増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○スマホ・ゲーム、睡眠時間など学校でできる指導を継続していただきたい。 ●睡眠時間やスマホ、ゲームが身体や学習成績等にどう影響するかを授業等で指導できるとよい。 ○グラウンドの陥没、照明なども、随時点検や修繕を図っていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的、医学的な根拠を通信やホームページ等に掲載していく。 ○将来につながるように「弁当の日」だけではなく、夕食等の手伝いにも挑戦させる。 ○村や村教委と連携しながら、修繕等を計画的に行っていく。
	(2) 食育の充実	食育を通じた適切な健康管理力を育成する。					
	(3) 安全教育の充実	安心・安全な学校づくりに努める。 (安全意識の向上・設備の安全点検・安全管理の徹底)					
4 地学 域校 と と く も り に あ る	(1) 連携と協働による開かれた教育活動の推進	連携と協働による地域学校協働活動を推進し、学校の教育活動を通して、積極的に地域への貢献を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○村応援プロジェクトや学校行事、探究学習等で昨年度に比べ、地域学校協働活動も前進した。 ●より現実的、実践的な地域貢献につながるようにしていくことが必要。 ○昨年度同様マチコミメール、学校HPを活用して、積極的に学校の様子を発信している。 ●新聞への投稿(作文・感想文)も増えた。 ●ホームページも見やすくリニューアルの必要性がある。 ○学期1回のコンプライアンスチェックを実施している。 ●教職員の誰もが話やすい、働きやすい職場の雰囲気づくりを行った。 ●教職員がストレスをためないような職場環境づくりを徹底していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年同様、メディアに多く取り上げてもらい、西米良村のがんばりを発信してくれた。 ○小学校も中学校も子供たちがよく頑張ってくれている。 ○いつも職員の間が良く、学校の職場雰囲気も良いのではないかと。地域の方々ともいろんな形で交流してくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○兼ねられる行事等を精選していく。 (例)職場体験・村応援P(ゆたーと、ゆず、カラーピーマン) ○定期的な修正を図っていく。 学校行事等ホームページ掲載の頻度を上げていく。 ○コンプライアンスチェックと併せて簡単なストレスチェックも実施してみたい。
	(2) 学校便りやホームページによる情報発信	学校便りやホームページを活用して、積極的に情報発信を行うとともに、学校生活の様子を具体的に伝えて情報を共有し、改善に役立てる。					
	(3) コンプライアンス意識の徹底	教育公務員・西米良村民としての自覚をもち、コンプライアンスの徹底を図り、地域の学校としての村民の期待に応えることに努める。					
次年度の方向性についての校長所見		<ul style="list-style-type: none"> ○次年度も総合的な学習の時間「探究学習」を軸に置き、各教科とのつながりをもたせながら指導を図っていく。 ○小中一貫校(分離型)としての強みを生かした、より良い学校の在り方や地域に開かれた学校教育を推進していく。 					